

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

私は、入学式を迎えるたびに「出会いの奇跡」ということを思います。大きな宇宙の中の地球という星に生命を受けて、同時代に生まれたこと・・・すでにそれだけで大変な偶然です。まして、今日、神奈川学園のこの場所で、私たちが出会ったことは、奇跡的なことだと感じます。この思いは、毎年、何度重ねても新鮮です。みなさんのまわりに、今日出会ったばかりのお友達が座っています。同じクラスになったこと、同じ班になること、お隣の席に座ること、それは偶然なんだけれども、これから始まる毎日の積み重ねの中で、意味のある関係になっていきます。

私の好きな工藤直子さんの「あいたくて」という詩を読みます。

あいたくて

だれかに あいたくて / なにかに あいたくて / 生まれてきた—— / そんな気がするのだけれど
それが だれなのか なになのか / あえるのは いつなのか——
おつかいの とちゅうで / 迷ってしまった子どもみたい / とほうに くている
それでも 手のなかに / みえないことづけを / にぎりしめているような気がするから / それを手わたさ
なくちゃ / だから
あいたくて

この詩を、私たちの出会いに重ねて考えてみましょう。

私たちは、誰かに会いたくて、何かに会いたくてこの世に生まれてきました。人生の最初の出会いは、お母さんだったでしょう。これから、この学校で、誰に出会うのか、何に出会うのか、みなさんの一人一人にそれぞれの出会いが待っているのです。あなたから見えないことづけを手渡されるのは誰でしょう？あなたに、みえないことづけを手渡してくれるのは誰でしょう？今日の出会いは、一緒に学校生活を始めて行きましょう。

さて、今日から皆さんは中学生です。なぜ、学校へ行くのでしょうか？考えたことがありますか？日本では、中学生の年頃の子どもは学校に行くのが当たり前です。でも、世界では、約半数の子どもが学校に通うことができていません。お金がないから、子どもが働かされているから、学校がないから、戦争や紛争の中にいるから、などの理由です。また、日本の調査でも、日本で小中学校に通えていない外国籍の子どもが、8400 人いることがわかったそうです。そう知ると、学校へ行くことは「当たり前」ではないとわかります。

「女の子だから」という理由で学校に行かせてもらえないこともあります。先月、マララ・ユスフザイさんが、初めて来日しました。マララさんはパキスタンの人です。6年前、「女の子も学校へ行きたい」と発言したために、イスラム過激派タリバンに、銃で頭を撃たれてしまいました。15 才でした。一命をとりとめたマララさんは、史上最年少でノーベル平和賞を受賞しました。今回マララさんが来日した理由は、「国際女性会議」で講演するためです。武装勢力の脅迫に屈せずに、女性が教育を受ける権利を訴え続けています。マララさんは、「一人の子どもが学校へ行って勉強できるようになったら、自分の言葉で自分の状況や自分の考えを訴えることができるようになる。それで、世界を変えることができる」と言っています。

あらためて考えてみましょう。「あなたは、なぜ、学校に行くのか。」と聞かれたら、どう答えますか？

今年の中学3年生の卒業文集に書かれていたことを紹介しながら、学校へ行く理由を考えてみたいと思います。

まず、たくさんの方が、行事やクラブ活動について書いています。

文化祭について

「私は、神奈川学園に入る前に何度か文化祭を見に来ましたが、みんな楽しそうで生き生きと活動していたことが印象に残っています。この学校に入るきっかけとなったのは、文化祭の楽しそうな雰囲気でした。」皆さんのなかにも、そういう人がいるかもしれません。この人は毎年文化祭で頑張りました…「私は、集団行動が苦手で、みんなと同じことをするというのが得意でないけれど、文化祭を通して一つの物をみんなで作るのが楽しいものだ」と知ることができました。」と書いています。

部活動について、

「3年間部活を頑張ってきて私が学んだことは、1つのことをあきらめないで頑張れば報われるということです。部活だけでなく勉強も同じです。頑張れば頑張るほど、『あれだけがんばったから大丈夫』と自信を持つことができます。そして、仲間がいることがとても心の支えになります。・・・一緒に頑張ってきた仲間は絶対に一生大切な存在になると思います。」

学校には、そこでしかできない、楽しい行事（文化祭だけではなくたくさんあります）や部活動があります。そして、学校には、一生大切な存在になる友だち、仲間がいます。そういう場所だから学校に通うのです。

次の人は、

「小学生の時、私はみんなの前に立つことがとても苦手でした。・・・私はそんな自分の性格が嫌いでした。だから中学に入るときには私はこの3年間のうちに積極的という言葉が当てはまるような人になろうと思いました。そこから私は変わってきました。」この人は、班長に立候補することから始めて、クラス委員になり、全校のラクス委員が集まる代議員会で勇気を出して発言しました。音楽会の責任者も引き受けて達成感を得る体験もしました。最後にこうまとめています。「この3年間でいろいろなことを学びました。その中で特に私は、自分が言わなければ何も伝わらないという、伝えることの大切さを一番実感しました。」

学校は、「なりたい自分」に成長できる場所です。だから学校に通うのです。

授業について、

「初めての英語の授業を受けて私の心は動いた。日本語と全く違うアルファベットの発音、初めて習う英単語やスペルなど、どれも私をわくわくさせた。」この人は、中学3年間、このワクワクを大切に育てました。日々の授業を大切に、中学2年生の校外英語研修やスピーチコンテスト、中学3年生の海外研修・・・あらゆる機会に英語を学び続け、「通訳」という明確な将来の夢をつかみました。最後に「英語とつながれる行事や普段の勉強を通じて通訳という夢に向かって努力し続けようと思う。」と書いています。

学校は、将来の夢をみつけて、そのための力をつけられる場所です。だから学校に通うのです。

中学3年間、平和・環境・国際というテーマで行われる総合学習について

「面倒くさいな」私が中1の時は調べたり話を聞くことが憂鬱でずっとこう思っていました。」という書き出しですが、神奈川学園にはいろいろな機会にたくさんの方からお話を聞くチャンスがあります。「・・・実際にたくさんの方のお話を聞くうちに、積極的に話を聞いてメモを取らなければという気持ちに変わっていきました。」・・・「私はこの神奈川学園で世界について考えさせられるきっかけをもらいました。夏に行ったユニセフや一日研修を通して私は実際の世界の現状を知ることができ、一人でも多くの子どもたちが夢をかなえられるよ

うな環境になればいいなと強く思いました。私はこのような貧しい子供たちの夢をかなえられるように手助けをしたいと思います。そのためにはしっかり勉強して、将来実際に現地で役に立つ人間として活動するのが今の夢です。」この人は、「将来貧しい子供たちの役に立つ人になりたい」という「夢」、をみつけました。そして、「誰かの役に立つ人になる」という生き方を見つけたと言えます。

学校は、自分がどう生きて行きたいのか、「生き方」を見つける場所です。だから学校に通うのです。

神奈川学園では「社会の中で誰かのために何かができる人になる」ということを大切にしています。そのためには、今の社会で何が問題なのか、何をしたら誰かを助けられるのかを知る必要があります。勉強して助けるために必要な力をつけます。そして、問題の解決のためには自分の考えを伝えて、みんなと協力できなければなりません。学校は、そういう力をつけるところだと言えます。

さあ、みなさんは、何のために学校に通いますか？「これがしたい」「こうになりたい」・・・是非、自分なりの目標を立てて、中学生生活を始めてください。

ご列席の保護者の皆様、本日はお嬢様のご入学、まことにおめでとうございます。

先ほどお話ししたマララさんのお父さんジアウディンさんは、教育者です。パキスタンでは学校を経営していました。マララさんは、襲撃された時、その学校に通っていました。ジアウディンさんは、先月、マララさんと一緒に政府に招かれて来日しました。新聞の取材に応じています。「マララが学校にいけない1億3千万人の女子の代わりに声を上げていることを誇りに思う」「マララにどんな特別なことをしたのかと人々に聞かれるが、私は彼女に教育を与え、翼を切らなかつただけだ。」と語ったと、記事に書かれていました。人々は、「何をしたのか」と尋ねるけれども、「何をしたかではなく、何をしなかつたかが大事なんだ」と言っています。「教育を与え、翼を切らない」……教育に携わる者として、子供を育てるものとして、とても考えさせられる言葉です。私たちは、保護者の皆様とともに、未来にはばたく翼をもった生徒たちを育てていきたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

以上をもちまして、式辞といたします。